

# はあとふる

地域の皆さんに、心(Heart)と技術(Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌

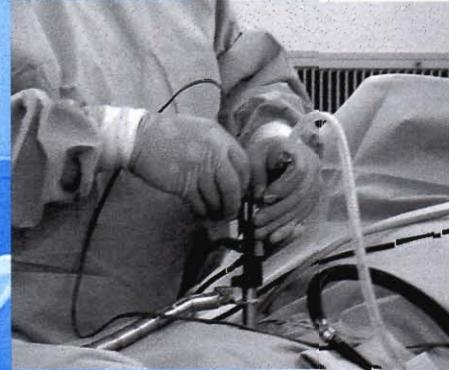
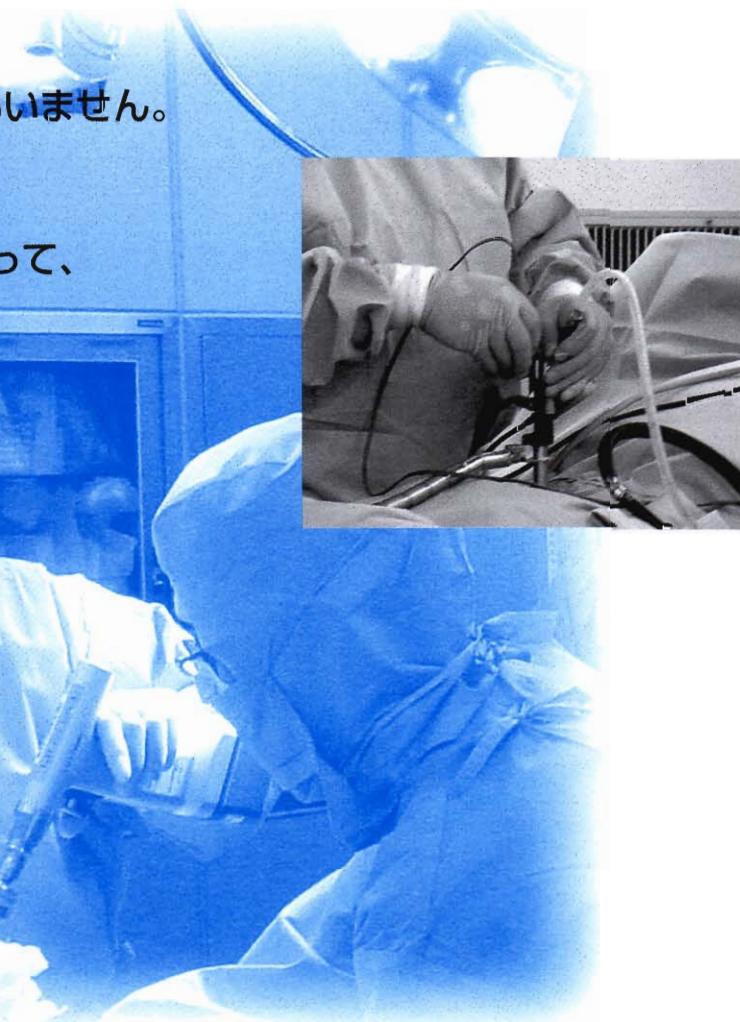
## 島田病院 平成18年度手術実績のご報告

島田病院には、心臓の専門家はいません。

島田病院には、呼吸器や脳(頭)の専門家もいません。

私たちのできることは限られています。

しかし、私たちは、限られた分野に誇りを持って、  
質の高いヘルスケアを提供していきます。



高度な診断能力を有する  
**マルチCTを導入**

★島田病院携帯版ホームページを開設  
裏面のQRコードから簡単にアクセスできます。



島田病院、八尾はあとふる病院は  
「病院機能評価認定病院」です。

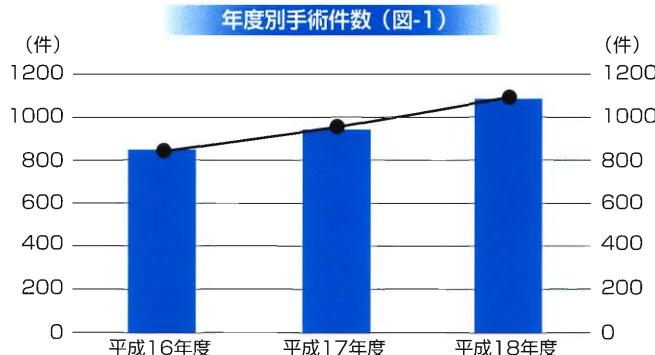
はあとふる グループ | 医療法人(財団) 永 広 会  
社会福祉法人 はあとふる

# 島田病院は、高度な医療スタッフとリハビリテーション機能の充実した整形外科専門病院を目指しています

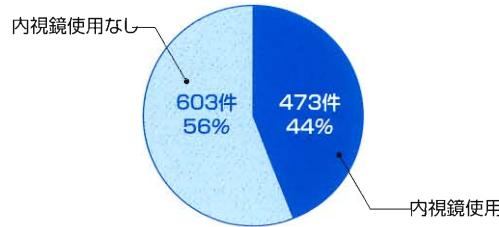
ヘルニアや靭帯損傷など内視鏡を利用した手術が中心になりつつあります。(平成18年度手術実績から)

内視鏡手術を導入したことでの手術件数が増えています。

島田病院の平成15年度から18年度までの入院手術件数(図-1)の棒グラフを見ると、平成17年度は946件(前年比+89件)、平成18年度も1,076件と増加しています。その1,076件の手術のうち、内視鏡手術は44%を占めています。(図-2)



内視鏡使用手術割合(図-2)



体に優しい内視鏡手術。

通常と比べて手術創が小さく、からだにやさしい手術で低侵襲手術と言われています。短期間で退院でき、社会生活やスポーツへの復帰が早期に可能となります。入院期間が短いので医療費も安くすみます。島田病院ではこのような手術を腰・肩・肘・膝に行っています。病名としては「腰椎間板ヘルニア」「肩関節脱臼」「関節唇損傷」「肘・膝離

断性骨軟骨炎(野球肘)」「膝前十字靭帯損傷・半月板損傷」などです。

高い技術をもった医療スタッフが必要不可欠です。

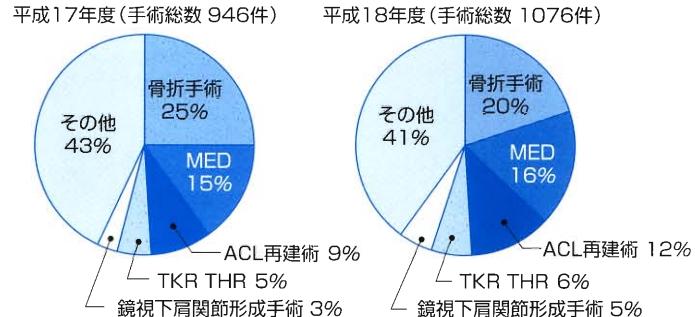
このような内視鏡手術を行うためには、高度な機械・設備はもちろん必要になりますが、高い技術をもった医師・看護師を始めとする医療スタッフが必要です。(4ページに手術室で勤務する看護師のインタビュー記事を掲載していますので、ぜひご覧下さい。)

整形外科専門医だけでなく、全身管理をする内科医、麻酔科医がかなめとなります。そして手術から、よりよい成果を引き出すためには、手術前後の適切なリハビリテーションも重要な要素です。十分なリハビリテーションができるよう人員を配置し、育成に力を入れています。

また、患者さまを感染などのリスクから守る感染対策など医療安全に取り組むために、感染安全管理の専任者を配置しています。

平成17年度と18年度の手術の中で、MED(内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア手術)、ACL再建術(膝前十字靭帯損傷手術)、TKR(人工膝関節置換術)、THR(人工股関節置換術)、肩関節形成手術などの専門手術が占める割合は、平成17年度32%から平成18年度40%と増加しています。(図-3)

年度別入院手術割合(図-3)



\*詳細は島田病院ホームページ<http://www.heartful-health.or.jp>の「手術実績」をご覧ください。



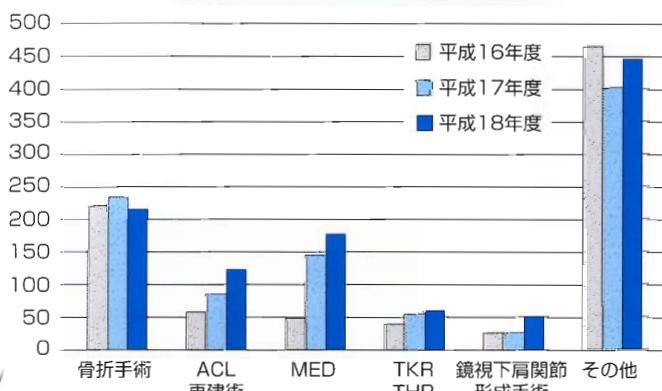
内視鏡による腰椎椎間板ヘルニア手術を行う金田国一医師



内視鏡手術によるカメラ映像

平成15年度から平成18年度の代表的な術式ごとの手術件数の推移(図-4)を見ても、内視鏡の手術やTKR(人工膝関節置換術)、THR(人工股関節置換術)などを初めとした専門手術が増加しているのが分かります。

年度別手術件数の推移(図-4)



### 手術に自信があるとはいえ、 安易に手術を勧めません。

手術件数が病院を評価する上で、一つの指標になることは間違ひありません。しかし、私たちは患者さまに安易に手術をお勧めしているわけではありません。毎週木曜日の早朝に専門職種が集まるカンファレンスが継続されています。ここで、複数の視点から、その手術や治療が適切かどうか検討が重ねられます。患者さまには十分な説明で納得し選択していただけるよう努力しています。

### ランキング本でも上位にランクイン。

整形外科の専門性を特化させることで、毎年ランキング本に掲載されるようになりました。読売新聞社の病院の手術件数を元にしたランキング本「病院の実力2007」では、

MED(内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア手術)が近畿1位、スポーツ整形外科部門では、ACL再建術(膝前十字靱帯損傷手術)が近畿8位にランクインしており、その他の整形外科部門でも上位にランクインしています。それは、私たちの努力の積み重ねでもあるので、素直に「うれしい!」「やった!」と感じています。

### 患者様に選んでいただけるように、 情報の開示そして活用。

最近ではご自身の病状に関して、あらかじめ調べ、知識を持って来院される方が増えました。遠方からでも情報を得て、当院の専門医の診察に来院されることもあります。

もし、あなたが病院を受診しなければならなくなったりの場合には、どのようにして病院を選びますか?

身近な人に相談するのもいいですし、いつでも情報収集できるツールとしてホームページや雑誌、ランキング本などがあります。今後、医療機関の基本情報を公的なホームページで公開することも進んでいきます。これらをうまく活用して、病院の特性と実力を見極めて、ご自分にあった病院を選択していただければと思います。

私たちは、手術後、イメージした通りに社会生活に復帰された多くの経験を持っていますが、中には、イメージ通りの結果が得られないことも残念ながら経験することがあります。そのような事実も含めて、今後、さまざまな方法で、「島田病院の特性と実力」の情報を開示していきます。

# 『チーム医療には仲間同士のコミュニケーションが大切。』

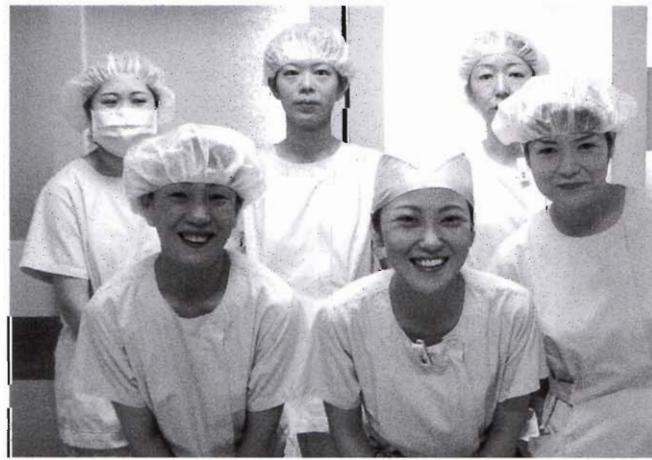


島田病院 手術室 看護師 リーダー 本庄 恵子さん

今回は、手術室で勤務するナース 本庄恵子さんからお話を聞きました。医療を題材にしたドラマや報道番組でも手術の現場は、最も興味深い場面の一つですよね。日頃、患者さまが直接関わる機会は少ないと思いますが、手術室のナースとその業務について紹介をします。

『私は、これまで十数年間手術室での経験を積んできました。その後、病棟での勤務を経験し、縁あって島田病院の手術室に勤務することになりました。手術室のナースは、病棟や外来とは業務内容がかなり違いますね。手術室での主な仕事は、手術機材の準備です。みなさんもテレビなどで良くご存じの、医師が『メス』って言ってナースがメスを出すあれですよ。やってることはあんな感じですが、実際はそう簡単なものではありません。執刀医のサポートを瞬時に行うために、手術に関する深い知識が求められます。手術の流れをちゃんと把握して、次に必要な機材を指示される前に出していくことが必要なんです。手術機材も膨大な数があり、機材名は当然として、いつ、どのようなときに、どのくらいの数を使うのか、など全て覚えなければなりません。この流れがスムーズにいくと手術時間の短縮につながり、患者さんの負担の軽減にもなるので非常に大切なんですよ。

これまで手術室以外でも勤務して、色々な経験をしてきましたが、病棟や外来に比べて、患者さんとコミュニケーションをする機会が少ないので少し残念です。患者さんとは麻酔前と手術後に少しコミュニケーションがとれるだけですから…。しかも、



手術室スタッフ

その時の私はマスクもしてて、目しか出でませんからね。これじゃあ本当の意味でのコミュニケーションとは言えませんよね。患者さんと精神的なサポートという面で深い関わりを持てることが少ないんです。そういう意味では、患者さんと深く関わる事ができる病棟の方が勉強にもなるし、いいなあと思っているんですが、今は手術という専門的な部分のみに関わり、1回ごとに完結するこの仕事に魅力を感じています。看護面での手術説明は、私たちが出演したDVDを患者さんに見ていただいているんですが、患者さんの不安や緊張を少しでもなくせるように、ぜひ生身の私たちが訪問したいと思っています。

島田病院は手術件数も多いので、毎日手術が終わったあとは『くたくた』ですし、ストレスもたまりますね。そんな私を癒してくれるのが永ちゃんです。えっ!?もちろん矢沢永吉のことですよ。私はプレミアムファンクラブに入っているのでコンサートは必ず1~10列目までなんです。夫の影響で始まった永ちゃんのファンですが、今ではむしろ私の方が熱狂的で、永ちゃんのことを思えば仕事の疲れも吹き飛びます。手術中の医師やナースは緊張しっぱなしですから、ストレス解消法もないですね!

患者さんにとって、手術は一大事ですから、私たち医療スタッフは気を抜くことはできません。良い手術、良いチーム医療を提供するためには、仲間同士のコミュニケーションがすごく大切になるんですよ。手術室の勤務は交代制ではないので、常に同じメンバーで業務を行います。ですからチームワークが築きやすいのはいいところですね。特に島田病院の手術室は、みんな仲良しですよ。だからチームワークも抜群です!!』

『手術』という専門性の高い分野で、技術のみにとらわれるのではなく、患者さんの負担を軽減するためのコミュニケーションにも、取り組みを広げていきたいと思います。島田病院の看護部では、外来、病棟、手術室で勤務できるエキスパートナースの育成に取り組んでいることや、手術室と病棟間でナースが連携することでより患者さまとコミュニケーションがとれるようなシステムの構想も聞きました。現状維持にとらわれず、患者さんにとって少しでも良い医療を提供できるように取り組み続けている手術室に期待してください。

## 変形性膝関節症について

■島田病院 整形外科 医師 佐竹 信爾

Q 変形性膝関節症とは、  
どのような病気ですか？

**A** 関節とは骨と骨との連結部分で膝関節は、大腿骨（だいたいこつ：太ももの骨）、脛骨（けいこつ：すねの骨）、膝蓋骨（しつがいこつ：お皿の骨）の3つの骨があります。連結部分は滑膜（かつまく）という袋におおわれ、中には潤滑液が入っています。骨の表面は軟骨（なんこつ）という表面がつるつるしたクッション材がついており（グルコサミン、コンドロイチン、ヒアルロン酸などの成分があります）スムースに関節が動くようになっています。変形性関節症とは、軟骨が老化し、表面がデコボコになってすり減った状態をいいます。進行すると軟骨が無くなり骨がむきだしになります。

Q 変形性膝関節症とは、  
どのような人がなりやすいですか？

**A** 変形性膝関節症は、年齢とともに増加します。膝周囲の靱帯や半月板などをケガした人、O脚の人、体重の多い人、筋力の弱い人、関節リウマチ等の病気になっている人が進行しやすいと言われています。最近、変形を引き起こす遺伝子が、いくつか発見されました。

## 変形性膝関節症の手術治療

人工膝関節置換術とは、傷んだ関節を金属やプラスチックに入れ替える手術です。虫歯になった所を削り、金属でカバーする歯医者さんと似ています。全身麻酔と下半身麻酔の両方で行います。手術時間は2時間程度ですが、出血する為あらかじめ自分の血液を準備しておく必要があります。

痛みがとれるという大きな効果がありますが、正座などの深い曲げ伸ばしや激しい運動などの無理はできません。感染や血栓（けっせん：ちのかたまり）症などいくつかの合併症にも注意しなければならないので担当医とよく相談してから決めましょう。

Q 変形性膝関節症とは、  
どのような症状ですか？

**A** 軟骨がデコボコになることで、動かすときに痛みが出たり、膝が曲がらなく（伸びなく）なります。関節の炎症がおこり、水がたまることがあります。

最初は、膝の違和感や正座ができないという程度ですが、進行すると、回数が増え、痛みが強くなります。痛みで立てない、力が入らなくなる程ひどくなる人もいます。

Q 変形性膝関節症には、  
どのような治療を行いますか？

**A** 運動、お薬、装具などの治療を行います。それでも効果が得られない場合には、手術も考慮します。

治療で一番大事な事は、運動です。痛みがあると動かしてはいけないと思っておられる方が多いのですが、動かさない、歩かないと筋力が弱くなり、骨へ体重がかかる負担が増え、ますます痛みが強くなるという悪循環を引き起こしてしまいます。リハビリで太ももの筋肉を鍛えて骨への負担を減らし、歩けるようにしましょう。

お薬は、痛みや炎症を抑える飲み薬、シップ、坐薬を用います。関節の中に痛み止めやヒアルロン酸という潤滑液の注射を行うこともあります。

膝への負担を減らすためにサポーターや杖を使用するのもよいでしょう。

## ○ profile

- 佐竹 信爾（さたけ しんじ）
- 島田病院 整形外科 医師
- 経歴 平成11年大阪市立大学医学部卒
- 専門 骨折、外傷
- 趣味 ゴルフ、コンピュータ

## ひとこと

患者さん、一人ひとりにあった治療を心がけています。  
膝の痛みでお困りの場合は、診察にてご相談ください。



## 「看護の日イベント」へのご参加ありがとうございました!

毎年恒例の「看護の日」のイベントを平成19年5月12日に開催しました。当日はお天気にも恵まれ、私たちが予想していたよりも多くの患者さまや地域の方々216名が参加してくださいました。

血圧測定や体力測定、ヴィゴラス体験、検尿、健骨測定、フットケアなどを体験していただきました。また、くじ引きや景品の抽選などさまざまなゲームにも参加され、豪華?!景品を手にいろいろなコーナーを回っておられる方や母の日を兼ねて感謝の気持ちを言葉にした『しおり作り』をする微笑ましい姿、200本用意したカーネーションのプレゼントコーナーなど大盛況でした。

楽しみながら自分の身体のことをいろいろ知っていただき、地域の皆様との交流を図るとともに、皆さまの健康維持のお役に立ちたいと考えています。来年も多くの方々にご参加



いただき、「看護の心をみんなの心に」というテーマが伝わるようより楽しいイベントにしていきたいと思います。



## 第44回日本リハビリテーション医学会 神戸で開催される

本年6月6日～8日、日本リハビリテーション医学会が神戸で開かれました。障害を持つ人の社会復帰へのとりくみは日本でもかなり昔からありましたが、リハビリテーション医学という学問が欧米から導入されたのはおよそ50年ほど前のことでした。そして1963年(昭和38年)に第1回日本リハビリテーション医学会が大阪で開催され、以来毎年一回、関係する全国の医師が一同に集まってリハビリテーションの知識・技術を研鑽する学術集会が行われています。今年はその44年目にあたり、「実学としてのリハビリテーション」すなわち学問としての知識をどのように実際の役に立つ技術やしくみにつなげてゆけるのかということがメインテーマとして掲げられました。脳卒中やリウマチ、スポーツ障害を含む手足の故障をはじめ、脊髄や神経・筋肉の病気、障害を持つ小児、高齢者、その他さまざまな内臓の慢性疾患など幅の広い分野で、800近い研究報告があり、医師だけでなく関係職種も含め約3000人の参加がありました。学会の後、9日には介護について一般市民の皆様のために公開講座も設けられました。

今回は特定の大学を中心とした主催ではなく、関西労災病

院の住田会長の指揮のもと、私どもを含め近畿のリハビリテーション医が一致協力して運営に携わって運営されたことも特徴であったといえます。日本リハビリテーション医学会の発祥の地、近畿・大阪で働く者として、これを機に新たに心機一転努力してまいりたいと思います。



八尾はあとふる病院  
副院長 小野 仁之

## マルチCTを導入 撮影の質が向上しました。

今までのCTは1ミリ以下の薄いスライスが撮影できず、また1方向の断面しか画像にすることができませんでした。今回導入したフィリップス社のCTはマルチCTと呼ばれているもので、1ミリ以下の薄い撮影が可能となり、診断に必要な画像をいくらでも一回の撮影から作成することができます。撮影した断面を使ってできあがる画像の例が図-1～2です。このように立体的に見ることも可能となりました。

現在では骨折や細かい部分を撮影する時はCTで、靭帯や軟部組織などX線で映りにくいものはMRIと使い分けて使用しています。マルチCTの導入によって、患者さまの状態がより詳しくわかるようになりました。今回導入したマルチCTは内科領域ではすでに高い評価をうけています。一方、整形外科領域においては、まだまだ研究段階の部分もありますが、高度な診断能力を有しています。このようなCTを活用して

当院の医師をはじめ、近隣の病院や医院の先生方とも協力しながら、より正確な診断ができ、治療に貢献できるようにしていきたいと思います。

放射線課 リーダー 渋谷 真一



図-1



図-2

## Infection Control Nurseの部屋

### 手術部位感染の現状と予防策

今年も猛暑のようで、暑い夏がやってきました。体調を崩さないよう心がけたいものです。

さて、今回は手術部位感染つまり手術を受けることによって発生する感染についてお話をいたします。米国では何十年も前からこの問題に取り組み、術式別の感染率をモニタリングしています。日本においても2002年より200床以上の病院を対象に手術部位感染の全国調査を行っており、2005年度の集計で『骨折の手術』は発生率1.9%、『膝の人工物の手術』であれば0.6%と示されています。(国立感染研究所のホームページでどなたでも閲覧ができます)では、手術部位感染の予防策とはどのようなことなのか少し紹介いたします。

- ・糖尿病の方は感染のリスクが高いので、術前から血糖を管理する。
- ・喫煙は、感染のリスクを高めるので、手術30日前には禁煙をする。
- ・カミソリでの毛剃りは行わない。
- ・整形外科的な人工物の植え込み術を行う場合は、ヘパフィルターを介した空気を供給できる手術室で行う。

法人事務局 感染・安全管理担当  
感染管理認定看護師 森下 幸子

当院では?と申しますと、もちろん毛剃りは感染のリスクですのでできるだけ行わず、必要であってもカミソリではなく、医療用電気クリッパーを使用しております。また、手術室の空気管理もできております。ところで、これから手術を受けられる皆さん！手術後の感染リスクをできるだけ減らすためにも、術前は禁煙をお願いします。また、歯の治療も重要で、虫歯や歯周病の菌が血液を通じて、手術をしている場所へ集まり手術部位感染を引き起こすとも言われています。



医療用電気クリッパー

### …ひとりごと…

子供の頃は、冷房はなくても、父が冷凍庫の氷でイチゴのシロップかけのかき氷を作ってくれて、それを食べるだけで涼しかったように思います。あの時代は涼しかったんですね…そして、あの時の氷は水道水だったはずです。今は、飲み水を買う時代になりました。何だか懐かしく思います。



インフォメーション

## はあとふるグループのコア概念

### 使命

私たちは、良質のヘルスケアサービスを効率よく地域の方々に提供し続けます

### 理念

私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを心(Heart)と技術(Hands)で支援します

### 基本方針

4つの追求

- 「確かな技術」を追求します
- 「心に届く」を追求します
- 「安全」を追求します
- 「信頼でつながるチーム」を追求します

## 悠々亭 夏祭り

盆踊り、出店(やきそば・中華おこわ・かき氷 等)、花火など楽しいイベント開催!

|日 時 平成19年7月29日(日) 16:00~19:30

|場 所 介護老人保健施設 悠々亭 駐車場・デイルーム

|対 象 悠々亭ご利用者及びご家族、羽曳野市 南恵我之荘校区・高鷲南校区ふれあいネット雅推進チームさま

当日悠々亭1F事務所にて金券(¥100~)を販売いたします。  
(出店ご利用の際は、あらかじめご購入ください。)

お申し込み  
お問い合わせは

**072-953-1002**  
悠々亭・夏祭り係まで



**IAAF  
世界陸上2007大阪  
開催**

8月25日(土)から  
9月2日(日)まで

場所: 大阪市長居陸上競技場

詳細はホームページをご覧ください。  
<http://www.osaka2007.jp>

Check!

QRコードで簡単アクセス

島田病院の情報が携帯電話から簡単にアクセスできます。



### ■ ヴィゴラス競技別教室

お申し込み・お問い合わせは  
島田病院地下1階、はびきのヴィゴラスまで

**TEL/FAX  
072-953-1007**

Eメールでのお申し込み  
[vigorous@heartful-health.or.jp](mailto:vigorous@heartful-health.or.jp)

皆様のご参加、お待ちしています。

#### テーマ

#### バドミントン教室 ～障害予防のためのトレーニング～

講義と実技を行います。運動できる服装(更衣室をご利用頂けます)  
室内用シューズをご持参ください。

#### 日 時

平成19年7月26日(木) 19:00~20:30

#### 開催場所

島田病院 地下1F はびきのヴィゴラス

#### 対 象

バドミントンの指導者および選手

#### 講 師

島田病院 理学療法士 小田 希

#### 募集人員

先着15名(完全予約制)

#### 参加費用

1,050円(税込)



### はあとふる グループ

#### ●医療法人(財団)永広会

- 島田病院 072-953-1001
- Eudynamics はびきのヴィゴラス 072-953-1007
- 介護老人保健施設 悠々亭 072-953-1002
- 在宅介護支援センター 悠々亭 072-953-1003
- 介護サービスセンター ゆうゆう亭 072-953-5514
- 〒583-0875 大阪府羽曳野市樺山100-1
- ヘルパーステーション 悠々亭 072-953-1062
- 訪問看護ステーション ハートパークはびきの 072-953-1004
- 〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7
- 八尾はあとふる病院 072-999-0725
- 〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
- 介護サービスセンター はあとふる 072-999-8126
- 〒583-0815 大阪府八尾市宮町2-10-22
- 社会福祉法人 はあとふる 072-931-1616
- 高齢者生活福祉センター ゆうゆうハウス 〒583-0875 大阪府羽曳野市樺山96-10

## はあとふる

Vol.26 2007年7月 ●年4回発行 ●発行・編集/はあとふる編集部 〒583-0875 大阪府羽曳野市樺山100-1 島田病院 地域連携課

ホームページをぜひご覧ください。 <http://www.heartful-health.or.jp>

072-953-1001(代表)